

## なまはげ館：解説 なまはげ概要

ナマハゲは、古代から男鹿で信仰を集める真山や本山のような山の神々の化身であると信じられています。歴史的には、新しい年の最初の満月を祝う祭事である「小正月」の夜に現れるものです。これは旧暦の最初の月の15日目に相当します。通常、現代では2月中旬となります。1873年に日本がグレゴリオ暦（新暦）を採用して以来、ナマハゲも新体制への適応を余儀なくされ、現在ではナマハゲ行事は12月31日に行われています。

大晦日にはナマハゲは村の家から家へと訪問して回り、厄や穢れを祓い、豊作や豊漁を招き、来たる年の家内の健康と安全を約束します。また少なくとも2世紀にわたり受け継がれてきた民族儀礼を通じて、怠惰と不服従を叱ります。2018年現在、ナマハゲの伝統は男鹿中の90もの集落で実践されています。

ナマハゲによる子供のしつけは、共同体の一員としての道徳と適正な行動態度を植え付けるよう意図されています。一方、大人は規律を教えられます。長く寒い冬やその他の厳しい自然条件に耐えるため、よく働くことが求められる男鹿のような伝統的な農業社会では極めて重要な資質です。ナマハゲは家を立ち去る前に、家族が新年によい人間であることを約束するよう要求します。この約束は、欧米の「新年の誓い」とも比較できるものです。

男鹿のナマハゲは1978年に日本の重要無形民俗文化財に指定されました。2018年には北は秋田から南は沖縄までの8県にまたがる10の同様の伝統行事で構成される「来訪神：仮面・仮装の神々」の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。